教科等研究会（小学校社会部会）
令和3年度　研究活動のまとめ

1　研究テーマ

持続可能な社会の創り手を育てる社会科学習

2　研究経過

第１回			第２回				第３回			
期日	人数	場所	期日	人数	場所	講師	期日	人数	場所	授業者
6/7	27 人	御船小	11/12	17 人	益城中央小他	柴田敏博	1/28	３人	滝尾小	山本聡史

3　研究の概要

（1）研究の内容

①　研究主題設定の理由

○　本研究部会のあゆみ

本研究部会では、学習指導要領をもとに、主体的に調べて考える学習活動及び児童の問いを大切にした問題解決的な学習を進めてきた。特に言語活動を大切にした学習の取組は、多角的な思考力や判断力、表現力を育成する上で大きな成果をあげてきたと考えている。

今年度もこれまでの取組の成果をふまえ、上益城の県学力調査による傾向と分析、上益城郡教科等研究会の全体テーマも考慮した上で､社会科における言語活動の充実を図りながら、児童が習得した知識や技能をもとに思考・判断し、表現することのできる授業づくりを更に充実させていきたいと考えた。

また、本研究部会では、「生き方を求め合う」や「未来を育む人間を育てる」などにあるように『人間の生き方に迫る』という点にこだわって教材を開発したり授業展開を考えたりしてきた。人と出会い、その生き方・考え方に触れることは、より教材が身近な問題になるだけでなく、社会科において必要となる概念形成を目指すためにも今後も授業づくりのなかで大切にしていきたい。

○　これからの社会科学習に求められるもの

「知識基盤社会（新しい知識、情報、技術が政治、経済、文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す社会)」と言われる時代がはじまり、とりわけ、旧来のパラダイムの変換を伴うことの多くなる社会では、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断がいっそう重要であると考えられるようになった。これから求められる「生きる力」とは、社会が日進月歩で変化しつつある中で、社会に主体的に対応し、問題解決に取り組める力であり、それはそのまま求められる人間像でもある。

令和２年度から､新学習指導要領が完全実施となった｡新学習指導要領のキーワードは｢主体的・対話的で深い学び」の実現であるが、このことは、社会科においては知識・技能を活用することで思考力・表現力等を育成し、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養を目指すものであり、それらは問題解決的な学習による学びの必要性を示唆している。

また、国内外の学力に関する調査結果からも、思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式の問題に、徐々に改善されつつあるものの、やはり課題が考えられることが明らかとなっている。今後も習得した知識や技能を基に、活用する力を培うことが、今日的な教育課題である。

②　研究の視点

視点１　「人間の生き方に迫ることのできる教材開発」

上益城郡がこれまでこだわって「学び」にしてきた部分である。学習指導要領のねらいを達

成するために、何を学ばせるのか、自分の生き方にどうつなげていくのかを明確にし、地域人材を活用して人間の生き方に迫る。

社会科は、人間の営みを通して人間の生き方に学び、自らの生き方を考えるという本質を持つ教科である。そのため、授業づくりでは、学習の中で人間の生き方にふれ、何を学ばせるかに重点をおくことが大切となる。

本研究では、ねらいを明確にし、日常生活に密着した内容から入るなどの工夫を行いながら、ゲストティーチャーをはじめ様々な手立てで、人の生き方や考え方を学習したり、人材を活用したりすることが教材の本質につながると考えた。

上益城では、熊本地震において、本県最大級の震災を経験することとなった。そこには、復興やきずなを取り戻そうとする人々の姿や、その現実に主体的に対応し、問題解決に取り組もうとする人々の姿があった。そこにも、社会科で目指す人間像があった。そこで、本研究では、それらの教材化も重点的に行っていくこととした。

視点２　「主体的・対話的で深い学びを実現する学習活動」

主体的な学びについては、児童が学習課題を把握し、その解決への見通しを持つことが必要である。そのためには、単元などを通した学習過程の中で動機付けや方向付けを重視するとともに、学習内容・活動に応じた振り返りの場面を設定し、児童の表現を促すようにすることなどが重要である。

対話的な学びとして、実生活で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決していく姿を調べたり、話を聞いたりする活動を設定していく。

これらを踏まえ、深い学びの実現のために、「社会的な見方・考え方（視点や方法）」を用いた考察、構想（選択・判断）や説明、議論等の学習活動が組み込まれた、課題を追求したり解決したりする活動を行っていく。

視点３　「児童の学びを見取り、確かな力をつける評価」

評価活動では、教師が児童のよい点を励まして学習意欲を高めたり、児童一人一人の学習目標の達成状況をより正確かつ効果的に把握したりすることを大切にし、これまでの指導及びその成果を振り返り、今後の指導改善に生かしたり、多様な達成状況の児童に対して個別指導を行ったりする目安とする。

本研究部会では、目指す児童像に即して、児童の発言やノート、振り返りなど、一時間一時間の学習活動の中から、児童の変容を見届けていく。そして、児童一人一人の学習目標の達成状況をより正確かつ効果的に把握していく。

そのために、現実かつ継続的評価が可能となる様々な方法を検証するものとする。また、児童の取組や育ちを刻々と見取り、励ましながら自己評価や自己変容の記録、児童同士による相互評価等を充実させたい。

(2) 成果と課題

【成果】

○　第２回の研究会では、元飯野小学校校長の柴田敏博先生を講師として招き、「地域素材の教材化」と題し、講話をいただいた。その中で、教師が、地域に存在する貴重な地域素材をいかに見つけ、教材化していけばよいのかという点でヒントをいただいた。また、実際に谷川断層と潮井断層を見学したことで、教師自身が実際に足を運び、自分の目で見て感じ、教材化していくことの大切さを再確認できた。

○　第３回の研究会は、コロナ禍の状況の中で、残念ながら中止となった。しかし、少人数ではあったが、授業者の先生と事前研を２度行う中で、資料を吟味したり、単元の学習の流れや本時の授業の流れを考えていけたことは、貴重な学びの場となった。学習構想案も作成することができ、全部会員に配付し、広めることができた。

○　コロナ禍の状況ではあったが、昨年度に続き、学習構想案を作成することができたことは大変意義深いものであった。部会員に発信するだけではなく、各校で社会科の構想案を広めてもらうことで、郡内の社会科の授業力アップにつながるものと考えている。

○　２月の熊本県小学校社会科研究大会菊池大会（県大会）において、上益城の昨年度と今年度の実践をまとめ、県下に発信することができた。

【課題】

●　コロナ禍であり、なかなか実現できなかったが、新学習指導要領の趣旨や社会科の本質を

踏まえた上で、上益城の地域素材･人材を活用した人間の生き方に迫る授業づくりをさらに進めて行く必要がある。また今後も、誰にでもできる（やりたくなる）社会科の授業づくりを目指していきたい。

- 昨年度から、部会員が直接授業を見る機会、授業後に意見交換を行う中で、よりよい授業作りを追求していく場がなかなか設けられずにいる。来年度は、１本でも多く、研究授業・授業研究会ができ、学びの場を増やしていけたらと思う。
- 社会科の授業づくりを行う上で重要となってくる資料の活用の仕方（資料からどのようなことを読み取り、何をどのように伝えていくのか)、地域人材の活用、板書の工夫、評価の在り方などについても、更に協議し、よりよい授業づくりを行いたい。

４　実践事例

(1) 授業の概要

単元名　　日本の歴史「新しい日本、平和な日本へ」　（東京書籍　新しい社会６年）

【自評】

○　一人学びの場面で、日ごろなかなか書けずにいる児童が自分の考えを書くことができた。

○　グループで話し合う場面で、見ているだけになってしまう児童が見られた。

○　グループの発表の場面では、的を絞って発表させたことで、それぞれのグループの考えを端的に分かりやすく伝え合うことができ、まとめにつながった。

○　前時に続き、同じパターンでの流れであったので、児童は見通しを持ち、安心して授業に臨み、意欲的に学習に向かうことができた。

○　「産業の発展は、人々の生活を今の生活に近づけた」とまとめたが、果たして児童が「今の生活」をどう捉えているのかは漠然としたままになってしまった。

【授業後の意見交換】　3名(理事長･研究部長･授業者)が参加

○　４５分できちんと授業が終了し、児童も資料から自分の考えをしっかり出すことができたため、資料の精選がよかった。しかし、資料２（下水道の整備）は、意見が出にくく、児童にとっては考えにくいものだった。

○　個人で、そして、グループで、考えをウェビングマップにまとめていったが、児童も活動がしやすく、視覚的にも捉えやすいため、とても有効だった。主語がはっきりしない部分もあったので、記入の仕方は、よりよいものにしていく必要がある。

○　個人で作成したウェビングマップを単にグループのウェビングマップに写している場面が見られたのがもったいなかった。それぞれが資料から、根拠をもとに発表していく形を取った方が、グループとしての意見の練り上げ、共有にもつながったのではないか。

○　１時間１時間の授業が単元のゴール（意見文）につながるよう意識化が図られていたのがよかった。また、意見文を他校の６年生に伝える計画があり、相手意識や目的意識を児童はしっかりと持っていた。「今回学習したことで、七滝中央小のみんなに何を伝えたい？」という授業者の問いかけもよかった。

○　導入で、１９６４年のオリンピックの動画を見せたことで、児童の意欲も高まった。

○　まとめの「今の生活」という言葉は漠然としていたので、児童の思考にも温度差があったかもしれない。もう少し具体的にまとめた方がよかったかもしれない。「今の生活」は、次時で再度、確かめておいた方がよい。

(2) 学習構想案(要約版)

ア　単元の目標

（１）我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子などに着目して、地図や年表、当時の写真などの資料で調べ、我が国の政治や国民生活が大きく変わったことや、我が国が国際社会において果たしてきた役割を考え、表現することを通して、日本国憲法の制定やオリンピック・パラリンピックの開催などを手掛かりに、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解できるようにする。

（２）主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習してきたことを基に過去の出来事と今日の自分たちの生活や社会との関連や、歴史から学んだことをどのように生かしていくかなど国家及び社会の発展を考えようとする態度を養う。

イ　単元終了時の児童の姿(単元のゴールの姿･期待される姿)

戦後の日本が平和で民主的な国家づくりを目指したことや、産業の発展により国民生活が向上したこと、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことなどについて理解し、将来の日本を背負っていく一員として、これからの日本の役割について考えようとする児童。

ウ　単元を通した学習課題

これからの日本はどのような国になっていくとよいと思うか、自分の考えをまとめ、伝え合おう。

エ　本単元で働かせる見方･考え方

戦後改革や国際復帰、オリンピック開催等、戦後の日本の歩みを、時期や時間の経過などに着目して、それぞれの社会的事象の意味を考察したり、戦後の日本の様子についてまとめたりし、これからの日本の役割について選択・判断したりする。

オ　単元の指導計画（6時間扱い）

	時数	学習活動	評価の観点
1	②	○戦後の社会の変化について関心を持ち、学習課題を立てる。 ○戦後の変化について、戦後の日本に必要であったことを予想し、日本がどのような国づくりを進めたのか考える。	思－① 主－①
2	④ 【本時】	○戦後から１９４０年代後半の国内の改革や日本国憲法の制定について資料をもとに調べ、まとめる。 ○１９５０年代の日本の国際社会での位置、日本の独立回復について調べ、まとめる。 ○１９６０年代の高度経済成長期の日本について調べ､国民生活の向上についてまとめる。 ○１９７０年代以降の日本や世界の国々が抱える課題について調べ、課題解決に向けて、世界の国々が協力していることをまとめる。	知－① 知－① 知－② 思－②
3	②	○これまでの経験を踏まえて、これからの日本はどのような役割を果たすべきであるか考える。 ○学習を振り返り、日本はどのような国となり、世界と関わっていってほしいかを考え、学習をまとめた意見文を完成させる。	主－② 思－②

カ　本時の学習

〈目標〉

◎　産業の発展やオリンピックの開催がきっかけとなり、国民生活がそれまで以上に豊かになったことに気づくことができる。

〈展開〉

過程	時間	学習活動	指導上の留意事項
導入	7分	**1　前時のふり返りを行う。**	○資料やふり返りなどをもとに前時の学習内容を振り返らせる。
		2　課題をつかむ。	○１９６４年東京オリンピックの動画を視聴し､当時の様子を考えさせる。 ○オリンピックを開催するには、どんなことが必要か考えさせ、インフラ整備の必要性に気づかせる。 ○産業の発展に焦点を当て、人々の生活がどのように変化したのかを考えさせ、めあてに迫れるようにする。
		◎　産業の発展は、人々の生活とどのように関係していたのだろう。	
展開	30分	**3　課題解決に向けて活動する。** **①　資料をもとに産業の発展が生活に与えた影響を考える。（個人）**	○予想が思いつきにならないように、既習事項や資料から分かることや読み取ったことを根拠に自分の考えや理由を書くように指導する。 ○それぞれの考えをウェビングマップにまとめ、全体共有の中で視覚的にも児童が意見を捉えやすいようにする。
		②　考えを出し合う。（グループ）	○教師は児童の発言をしっかりと認め、児童が安心して発表できる環境を整えたり、出された意見に対して、意見を広げたり深めたりする問い返しをする。 ○人々の生活が向上したこと､豊かで便利になったことを全体で確かめる。
		③　全体で意見を共有する。（全体） **④　出された意見をもとに産業の発展は、人々の生活を向上させ、便利にしたことを確かめる。**	【評価基準】思－①　　ワークシート ○既習事項や資料を根拠に、産業の発展が国民生活とどのように関係していたのかについて考え、生活が向上したことや豊かで便利になったことに気づいている。
終末	8分	**4　本時のまとめとふり返りをする。** **①　本時のまとめ**	
		◎　人々の生活を向上させ、生活を豊かで便利なものにした。	
		②　学習のふり返りをする。	○出された意見をもとに児童の言葉でまとめていく。 ○生活を向上させた反面、公害などの新たな課題が生まれたことに触れ、次時へのつなぎとする。 ○今日の学習から、七滝中央小の友だちに伝えたいことを書かせる。